平成11年6月8日第三種郵便許可（年4回2・5・8・11月の10日発行）そうせい第181号平成30年5月発行

ZENSOUSEI 22th

22th 全国曹洞宗青年会

SOUSEI

181
2018.05

特集

女性僧侶として生きる

interview A

飯島惠道師 × 角一法侖師

特集

女性僧侶として生きる

社会で女性活躍・男女共同参画が叫ばれている今、仏教界で女性僧侶はどのような立場にあり、何を考え、どのような活動をしているのか。グリーフケアなど様々な活動・提言を行っている飯島惠道師と、グリーフケアに関心がある角一法侖師に語っていただきました。

武田（広報委員）／飯島さんと角一さんはお知り合いということですが、知り合ったきっかけは？

角一師／新潟の宗務所の布教師研修会で、私が興味を持っていたグリーフケアについて飯島さんが講師をしてくださり、終わった後に控え室でお話を伺いました。

グリーフケアとは

飯島師／グリーフケアとは、基本的には、ケアする側としては傾聴です。まずはしっかりとその方の悲しみに寄り添って耳を傾けるところから始まります。それがグリーフケアの一番大事なことだと思います。

武田／角一さんがグリーフケアに関心をもったきっかけは何かありますか？

角一師／27歳の時に母が亡くなったのです。その時に心が動揺したことがあって、母の死と向き合うことが難しかったんです。大切な人の死をきっかけにグリーフケアについて勉強してみたいと思いました。

武田／飯島さんは「ケア集団ハートビート」を主催しているそうですが、どういった活動をしているのでしょうか？

飯島師／生老病死のトータルケアができる団体を目指していますが、今はグリーフケアに焦点を当てて活動をしています。死別悲嘆をかかえていらっしゃる方に集まっていただいて、分かち合いの会を開いていて、それに加えて連続講座というのをやって、グリーフケアについて興味のある方が勉強する場を設けています。

角一師／日本では死は隠すべきものみたいな感じですよね。死というものが身近になった時に、対処の仕方がわからない人が多い。グリーフケアは、僧侶の方にももっと知ってほしい活動だと思います。

飯島師／病院で医療者から良いケアを受けていても、死亡退院してしまえばそのケアがプッツリと切れてしまう。その後は頼る先もわからず、気持ちの整理もつかないまま、やることばかり増えてくる。その大変さは誰がフォローするのか。それがグリーフケアの必要性を感じるところなんですよ。お坊さんができる可能性はあるんだけど、そこがなかなかうまくいっていない。

印象に残っている経験

武田／死別に接する中で、印象に残っている経験はありますか？

飯島師／赤ちゃんを出産されて、死産だったということで、その時、お母さんは何もしゃべれず膠着状態でした。お葬式の時、とにかくお供えしたいものがあったら何で

飯島恵道師（けいどう）

「尼僧を軽視する風潮をどう変えていくか」

飯島恵道師プロフィール
信州大学医療技術短期大学看護学科を卒業後、愛知専門尼僧堂で修行。その後、諏訪中央病院に看護師として勤務、訪問看護や緩和ケアに従事。平成12年より再び僧侶として活動。平成23年より長野県松本市・東昌寺住職を務める。現在、ケア集団ハートビート主催、NPO法人信州地域社会フォーラム理事。全国曹洞宗青年会（以下全曹青）顧問

も持ってきてくださいねと言ったら、それまでに用意していたおもちゃとか産着とかを持ってきてくれて、それを全部並べてお葬式をしました。

角一師／20歳で自死してしまった男性がみえました。自死というと周りには隠したいとかがあるんですけども、そこのお宅はお葬式を行ったんです。それで逆にそのご家族の気持ちが落ち着いたというか、救われたということがあったみたいです。儀式をきちんと勤めることで、亡くなったことを自覚していくというか、けじめがついていくというか。だからお葬式をきちんとやるということは大事だと思います。

僧侶としてのグリーフケア

飯島師／グリーフケアを必要なものだという認識のもとに葬儀をするべきじゃないかなと思います。亡くなった後のグリーフケアの一環として葬儀という形の儀式があって、それ以外にも年忌法要の場とかでグリーフケアがなされれば、長く続く悲しみにも対応していけると考えています。

角一師／ただお経だけ読んで終わりみたいなことではなくて、その場を通して宗教者として遺族とちゃんと対話する。そういうことってすごく大事です。

飯島師／宗教者のいいところは、ずっと付き合っていけることじゃないですか。亡くなった時から時間が経っていくと、亡くなった方について話す機会が減ります。そこで、宗教者が長い期間関わって、亡くなった方のことについても直接お話ができるというのは、非常に大事なグリーフケアだなと思っています。やっぱり宗教者がそういう意識を持つかどうかで、檀信徒さん側のケアされた感覚がだいぶ違ってくると思うんです。

角一師／一方で早く忘れたいという人もいるんですよね。それはその人によって違う。死別に対して正しい反応はない。ここは自分でも本当に大切にしたいなと思います。

飯島師／すごく長いスパンで50回忌とかあるのは、一人一人、悲しみに適応するためにかかる時間は違うから、悲しみの度合いに応じて供養をやっていったらというような、そういう仏教の智慧なのかなと思います。

地域活動

武田／お寺や地域の中で活動されていることはありますか？

角一師／毎年春と秋にお寺の庭園を公開してイベントを開催しています。ワークショップを開いたり、精進料理を出したりして、一般の方にもお寺を開放して使ってもらおうと活動しています。それと、禅の集いを開催したこともあります。地元の僧侶や知

「尼僧堂は生き方を問われる場」

角一法命（ほうりん）師

角一法命師プロフィール
新潟県普済寺徒弟。愛知専門尼僧堂安居。

り合いの尼僧さんを集め、一般の方と僧侶が共に学べる場を設けました。

飯島師／模擬葬儀をおこなっています。故人役の人が自らお棺に入ったり、参加者が仮の家族になって喪主一家になってみたり。あるいは旅立ちの衣装なんかも、一般的には白衣とか着せられるんですが、北海道のNPO団体では、自分の着ていた着物とかをリフォームして旅立ちの衣装として用意するようなんですね。それを展示して、小さいフューネラルフェアのようなことをやったりとか。葬儀は決まった形がありますが、そこに自分の意思を入れるならどういう形になるか、みんなで考えてみましょうということを企画したりしています。

蹴っ飛ばしたい現実

武田／飯島さんは以前、ある本に寄稿された文章の中で「蹴っ飛ばしたい現実」を紹介されていました。制度上は男性僧侶、女性僧侶の差別は解消されてきているようですが、実際はどうなのでしょうか？

飯島師／そうですね。昔ながらの男尊女卑のような「八敬法（はちきょうほう）（女性僧侶が男性僧侶に従う八つの規則）」という考え方があります。先に出家したとしても、女性僧侶が男性僧侶より先に行ってはいけない、必ず男性よりも下にいるべし、というのがあります。例えば大きな法要で、尼僧に役割が均等に与えられることはない。接茶寮（接待担当）、典座寮（食事担当）ばかりです。三仏のお葬式（三人の導師で行われる葬式）でも尼僧は三導師の一人にはなれない。月参りなどで知っている方の葬儀でも、できればおこないたいのにできない。これは男女共同参画とは言えないし、不平等なのではないかと感じます。

武田／その葬儀は、守っているお寺の檀家さんでもですか？

飯島師／檀家さんではなく信徒さんです。その方々に菩提寺は他にあって、私は月参りだけ頼まれることが多いのです。葬儀や法要も菩提寺に依頼され、私は一方的に日程と時間を伝えられるだけです。私が守るお寺に（専属の）檀家さんは数えるほどしかないのです。

そういう菩提寺と尼寺の関係が昔からあったわけで、それを問題だと思わない人もいます。でも、私は男女平等とかジェンダーの観点から見てしまうので、平等ではないなと感じます。

武田／角一さんは地元ではどうですか？

角一師／地元では若手として本堂でどんな仕事でもしています。最初の頃は周りのみんなも私のことをどう扱っていいかわからずに動揺していて。今はみんな普通に接してくれています。

飯島師／でも、圧倒的に少数というのはやはり辛いんですよね。何十人に一人とか。

角一師／そうですね。（男僧さんとは）考え方もまるで違いますし。

飯島師／女性がお坊さんになるのは、髪を剃ることに始まって、捨てるものが男僧さんに比べて大きいです。それに対して男僧さんはそんなに意識を変えずに僧侶になることができる。

女性僧侶・尼寺の現状

武田／最近はお寺で生まれ育った女性が僧堂に修行に行く例が増えていると聞きましたが、そう感じますか？

飯島師／世代ごとに違ってきているんです。昔は私のような尼寺出身の人が多かった。でもその後は尼寺を継ぐ人自体がいな

くなって、青山老師（愛知専門尼僧堂堂長）のお弟子さんが多くなり、男僧さんが住職を務めるお寺の娘として生まれた人が多くなったと聞いています。あと外国の人とか。

角一師／お坊さんになるきっかけは何でもいいとは思うんです。私だって寺の娘です。尼僧堂はかなり自分の生き方を問われる道場なので、そこに行けばある程度考えさせられると思います。

武田／女性僧侶の全体の数は減っているのですか？

飯島師／減っています。私より上の世代が圧倒的に多くて、減少人数が増加人数を上回っていますね。それと、在家から自らの意志で出家して尼僧さんになったとして、生活が保障されるかというと、そうではない。だから尼僧さんになることを勧められない。

武田／経済的に厳しい尼寺が多いですか？

飯島師／そうですね。だいたい月参りが財源なんですが、檀家がほとんどないですからお葬式もありません。最近はお葬式の簡略化に伴ってお葬式の随喜に呼ばれることも少なくなりました。

「本末制度（全てのお寺を本寺・末寺の関係に組み込む、江戸時代に作られた制度）」の延長として、尼寺が菩提寺になれない状況がずっと続いています。戦後に男女平等になりましたが、それまでの男女不平等の延長として尼僧さんには男僧さんよりも低い額のお布施でかまわないという、尼僧を軽く見る風潮が続いている。これをどう変えるかというと、まずは現状を訴えることから始めるしかない。

角一師／新潟にも尼寺が多いのですが、尼僧さんは一歩引いて我慢しています。尼僧さんも含めて、このようなことが問題とされていない状況こそが問題だと思います。

男女が一緒になって話し合う

飯島師／今回、倉島会長から女性僧侶の方も一緒にやりましょうと誘っていただいてもありがたかったです。今言ったような問題を知ってもらうのはもちろん、それ以前にやはり存在をアピールすることが大事です。

角一師／青山老師が人権について提唱される際、必ず『正法眼蔵』の「礼拝得髄」巻について話されます。その中で道元禅師は男女関係なく正しく法を会得した人に礼を尽くさなければならないと仰っている。女らしさとか男らしさとか分類しないで、ありのままに見る、これが本当の多様性です。

飯島師／女性も一緒になって発言できる場が必要だと思います。男女は一緒に行動し一緒に考えるということを宗務所や教区単位で考える必要があると思います。

角一師／僧堂修行のことでいうと、アメリカとかヨーロッパは修行道場でも男女一緒です。それが社会では普通なわけですから。異質な存在というか、自分とは違う事情を抱えている人がいて、その人と一緒に暮らしていると思いやりが生まれますよ。お互いにとって良い環境をお互いで模索することは人間性に大きな発展をもたらすでしょう。

武田／『SOUSEI』の読者にメッセージをお願いします。

飯島師／幸せになりたいと思った人が幸せになれるような宗門であってほしい。誰もが自分の人生を生ききれるような仏教であってほしいです。疑問に思ったことはどんどん口にしてほしい。またそういうことを質問されたら聞く耳を持っていただきたい、と思っています。

角一師／自分が今、普通だと思っていることを一度疑ってみる。普通だと感じられることが仏法に適っていることなのか考える。そういうことを皆さんにもしてほしいと思っています。

武田／本日はありがとうございました。

聞き手／広報委員　武田信光

○対談の会場となった東昌寺。
○東昌寺の歴代住職像。
○飯島惠道師の二人のお母様。
○聞き役は広報委員の武田信光。
（写真上から順に）

interview B
宮島俊京師
×
光吉祐證師

特集
女性僧侶として生きる

宮島俊京師（しゅんけい）
佐賀県弥福寺住職

宮島俊京プロフィール
長崎市の皓臺寺専門僧堂で修行し、26歳で弥福寺住職就任。
現在は母とサラリーマンの夫、4人の子供がいる。

「佐賀県曹洞宗青年会に所属しておられる2人にお話を伺うにあたって、私が不安だったのは、『女性』であるからと自分がその部分ばかりに焦点を当ててしまわないかということでした。あくまで同じ一僧侶としての考え、活動を聞いて、それでもなお存在する男女の状況の違いを伺えれば良いな、と思いながら鼎談（ていだん）に臨みました」

男性僧侶と女性僧侶が共に修行する僧堂

田ノ口（広報委員）／それぞれの修行体験からお聞きしたいと思います。光吉さんは愛知専門尼僧堂で修行され、宮島さんは長崎市の皓臺寺（こうたいじ）僧堂で修行されたとお聞きしました。実は宮島さんが皓臺寺で修行されていると聞いて、皓臺寺が女性僧侶を受け入れていることに少し驚きました。宮島さんが初めての例なのでしょうか。

宮島師／いえ、そうではありません。私が上山した時、すでに2人の尼僧さんが修行していました。その時々の堂長さんの判断で受け入れを決めておりまして、以前にも何度かそういう例はあったようです。

田ノ口／普段の生活は男性僧侶と同じなのですか。

宮島師／ほとんど一緒ですが、部屋とお風呂は違いました。尼僧さん用の部屋というのがあって、私たち3人はそこを使い、お風呂に関してはお客さん用のお風呂を使用していました。

出家者の仏教への想いにカルチャーショックを受けた

田ノ口／女性僧侶を受け入れる僧堂はこれから増えてくるかもしれないので、興味深いお話ですね。一方、光吉さんは愛知専門尼僧堂で2年修行されたということです。男性僧侶が行く僧堂と、女性僧侶の行く尼僧堂で何か違う点はありますでしょうか。

光吉師／男性・女性の違いで説明できることかわかりませんが、尼僧堂でカルチャーショックを受けたことがあります。現在の日本の僧侶の大半が、お寺の子どもとして生まれ、実家を継ぐために僧堂に行く、というイメージですよね。私も僧侶になり、実家を継ぐことが幼い頃からの夢でもあったので愛知専門尼僧堂で修行しました。でも、当時の尼僧堂が男性僧侶の行く僧堂と違って特殊だったのは、一般からの出家者が圧倒的に多かったことです。修行者約20人中、お寺の奥様、あるいは娘は私を含めて5人くらいでした。一般からの出家者は、仏教に対して強い思いを持っている人が多いのです。例えば青山老師のご提唱や、唯識（ゆいしき）（大乗仏教の根本思想であり、「唯識3

光吉祐證師

佐賀県長楽寺住職

光吉祐證プロフィール
高校卒業後、愛知専門尼僧堂にて修行。その後、愛知学院大学仏教学部卒業。韓国留学。現在佐賀県長楽寺住職。

年」という言葉があるほど理解するのに時間がかかるとされる）についての講義があったりすると、雲水が部屋に戻ってから「私は先ほどの講義の内容について、こんな見解を持つのだけど、皆さんはどう思う」というような議論になったりするんです。そういった仏教に対する強い思いは、私にとって新鮮でした。一般の人はここまで仏教に対して求めているものなんだ、と感じました。その体験があって、大学に行って学びたいと思うようになり、修行後大学に進学しました。

田ノ口／確かに男性僧侶の行く僧堂はお寺の息子か、あるいは縁戚者が多く、なかなかそういう雰囲気は醸成されにくいかもしれません。大学を出た後は師寮寺に戻られたのですか。

光吉師／いえ、実は韓国に行きました。上山前、師匠の知り合いの病院の先生に挨拶に行った際の、「自分たち医師も患者さんの治療に全力を尽くすけれども、最期にはどうしようもない時が訪れる。そこからは僧侶の仕事だと思う」という言葉がずっと心に残っていました。韓国の病院で、曹渓宗（韓国最大の仏教教団）の僧侶が臨床宗教師をしている緩和ケア病棟があると知り、そこで語学学校に行きながらボランティアをさせていただいたのです。

田ノ口／それが今の活動に繋がっているのですね。ホスピスの啓発活動に関わっているということですが。

光吉師／「佐賀のホスピスを進める会」というところがありまして、そこの「生と死の準備教育」に関わっています。様々な宗教のメンバーと一般の有志で学校訪問し、自分のいのち、先祖からいただいた「偶然性、有限性、連続性」の視点から「いのち」について子どもたちと一緒に考える授業をしています。

お寺に喜んで人が集まってきてほしい

田ノ口／宮島さんの活動についてお聞かせ願えますでしょうか。

宮島師／私は御詠歌が好きですので、御詠歌の講員さんを増やしたいと思って声掛けをしたり工夫をしています。なかなか新たに入る人は増えないので、これからも地道に活動を続けていこうと思います。また、月に一度仏教の勉強会を開いています。お檀家さんや地域の方を対象に、仏教や仏事の基本をお話ししています。初心者向けのお話しですが、毎月自分の方が大変いい勉強をさせてもらっています。これまで12年続けてこられたことが有難く、継続していくことが目標です。

若い方向けに「寺子屋 at ease（アットイーズ）～ママとベビーの学び舎～」という活動を立ち上げました。「at ease（アットイーズ）」とは「気楽に、寛いで」という意味があり、教室に来るママや子どもの気持ちが和むようにという思いを込めています。友人にコーディネーターをお願いし、知り合いの講師を呼んで、ベビーマッサー

ジ教室などをやってもらう。コーディネーターをお願いしたのは、住職が全部やると大変で続かないと思ったからです。現在は核家族が多く、孤立しているママさんも多いので、その方々の明るい笑顔を見ると、ああ、お寺は「つながり」の中心になる力があるな、と実感します。

田ノ口／宮島さんは陸上で長距離走をされていて、大学卒業後は実業団に入っています。そこから僧侶になるのは葛藤があったのではと思うのですが、いかがでしょう。

宮島師／実は私は、お寺の一人っ子として生まれて、お寺を継ぐかどうか迷っていました。なぜかというと前の住職、父ですけれども、あまり尊敬できる人ではなかったんです。父のようにはなりたくない、というのがまずあって、走る事に集中していました。そんな時に父が病気になったんです。余命も長くないということで、では寺をどうするかという選択を迫られました。継がないという選択肢もあったのですが、では母をどうやって守るか。お寺は個人財産ではないから、継がないのなら出て行かなくてはなりません。それはやはりすごく寂しいと思い、継ぐことに決めました。

女性が住職をし、家庭を持つのは簡単ではないが、時代が変わってきた

田ノ口／実際問題として、そういう場合、恋愛にせよお見合いにせよ結婚相手を見つけて、その男性に後を継いでもらう場合がほとんどです。自らが僧侶になろうと思ったのはなぜでしょうか。

宮島師／お檀家さんや地域の方々に好かれるお寺をつくるには、自分で挑戦した方が早いかな、と思ったからです。また、自分が僧侶になったら、仏教を勉強し、教え広めていくことができます。その方が生き甲斐にもなると思いました。そう考えると、仏教に対する好奇心がムクムクと湧いてきました。ただ、実際に僧侶になり住職になってみて、大変なことは多々あります。お寺の役員・世話人さんたちは男性ばかりで、意見を言うのも一苦労します。でもそこを母とともに知恵を振り絞って乗り越えてきました。今は思いやりのある夫にも助けられ、自分らしいお寺づくりをめざして試行錯誤しています。私が住職として存在し得る今の環境と、結局は仏道を志すきっかけを与えてくれた父に心から感謝しています。

青年会の役割は仲間を作ることである

田ノ口／光吉さんは佐賀県曹洞宗青年会の地区会長（同会では地区ごとに地区会長を出し、それが全体の副会長という扱いになる）をされていると聞きました。どういった気持ちで臨んでいますか。

光吉師／事業や活動も重要ですけれども、青年会の一番大きな役割は、「仲間を作る」ということだと思います。メリハリをつけて、なおかつみんなが居やすい場所にするよう心がけています。また、各々が一寺院の住職となる立場です。互いに相談し、切磋琢磨できる仲間はとても大切です。ですから懇親の場も大切にしています。

田ノ口／全国の青年会員、あるいは女性僧侶の方々に伝えたいことをお願いします。

光吉師／ある臨床心理士の方が講演で、「相手がいるとどうしても何かをしてあげなくちゃいけないと思う。しかし、してあげる、やってあげるという発想ではなく、今その人といる時間を、一瞬一瞬を大切に思って共有することが一番大事なんです」とおっしゃっています。僧侶もこの発想が大事なのではと思います。どうしても相手に教えなくちゃいけないと気張りすぎますが、まずは相手に真摯に向き合うことが大事だと思い私は活動しています。それぞれの個性を生かし、共に頑張りましょう。

宮島師／昔は自分が女性であることに劣等感を持っていました。でも最近は、女性であることを生かしていくことで世の中のためにもなるし、強みにもなると考えるようになりました。なぜかと言うと、仏事の疑問などちょっとしたことでも尋ねやすいとよく言われますし、共感力を発揮して悩み相談にも向いていると思うからです。

田ノ口／本日はお忙しいところありがとうございました。

聞き手／広報委員　田ノ口太悟

寄稿

女性僧侶として生きるとは

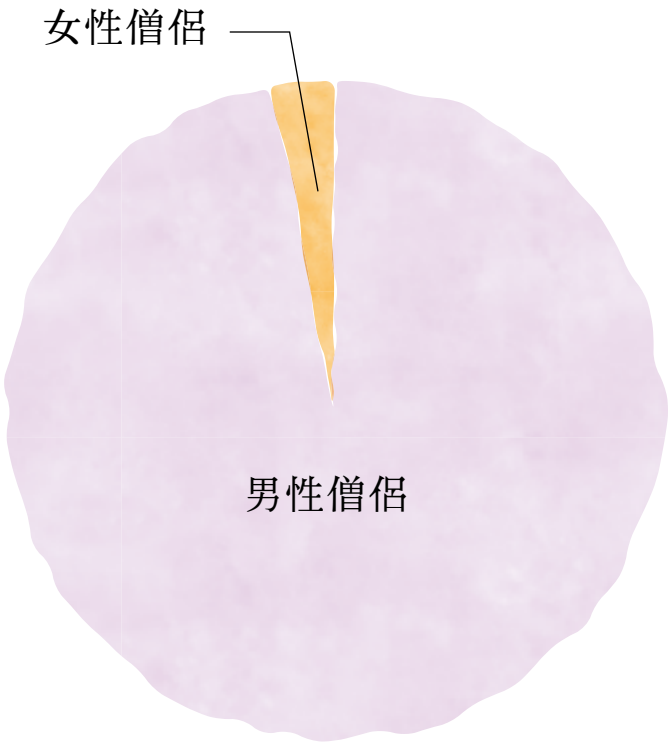
長野県・梅翁院徒弟／大澤香有（こうゆう）

現在、東京都で活動しております、大澤香有と申します。この度、SOUSEIへの寄稿のご依頼をいただき、正直何を書こうかと思い悩みましたが、シンプルに自分が今まで感じてきたことを皆様にお伝えしたいなと思います。

尼僧とは、想像を絶するほどマイノリティな存在である

皆様は、日本の曹洞宗僧侶の男女比をご存知でしょうか？男性97％、女性3％が、現在の数字です。しかし、これはあくまでも曹洞宗に僧侶として登録されている数であって、実際に尼僧として活動している女性僧侶となると、調査結果のわずかな3％という数字から、どれだけ少なくなってしまうのかは見当もつきません。正直、尼僧というのは、皆様の想像を絶するほど、マイノリティな存在です。

私は、お寺に縁もゆかりもない家庭に生まれましたが、たまたま入学した駒澤大学高校で仏教に出会い、そのまま駒澤大学教学部に進みました。大学4年間を、ごくごく普通の女子大生として過ごし、卒業後、愛知専門尼僧堂に修行に行きました。そこから、私の僧侶としての道が開かれたわけですが、昨年、アメリカの禅センターで修行をしていたときに、出家を迷っていた在家修行者の女性にこんなことを聞かれました。「あなたは、お坊さんになって諦めたものってある？例えば、家族や恋人とか……」



私は、咄嗟（とっさ）に思いつかなかったので「特にないかな？」と返答しましたが、後で部屋に帰り今までを振り返ってみて、「全くなかったわけではなかったな……」と考え直しました。

23歳で出家し剃髪して、何も感じずに生きてこられたはずはなく、同情や不審な目で見られたり、通りすがる人に2度見されないことの方が少ない、過去に何か大きな苦労があったのではないかと勝手に推測されるし、特異な目で見られることは当たり前。でも、そんな苦労はほとんどの男性僧侶には想像もつかず、周りには理解してもらえない。そういった葛藤を、20代の頃はずっと抱いていました。

応量器でいただくお粥よりも美味しい食事はない

しかし、「それが嫌ならお坊さんをやめればいいだけの話。自分で選んで自分で歩んでいく自分の人生なのだから」と考え、それよりも、やりたいこと、学びたいこと、見たい世界、体験したい世界を追い求めていこうと模索してきた結果、今もこうして僧侶としているわけです。

私は未だに、応量器でいただくお粥よりも美味しい食事に出会ったことがありません。それほどに、眼前には豊かな世界が広がっており、抱いてきた様々な葛藤が小さなことのように思えるほどの大きな喜びが多くあったのでこの道を選び続けてきました。

修行を通して得た知慧が自分を豊かにし、幸福へと導いてくれた

人生における価値というものは、人それぞれに違います。ただ、その中で私は修行を通して得た知慧が、何よりも自分を豊かにし、幸福へと導いてくれていると感じており、小さな欲望は、大きな喜びへの欲望に打ち消されてきたというのが結果です。これからも、精進し多くの人々と喜びを分かち合っていけたらと思います。

特集

女性僧侶として生きる

取材を終えて

女性僧侶の方の声を集めて特集を組む、と思い立ってから何人かの女性僧侶とお会いして痛感させられたのは、自分がいかに女性僧侶について無知かということでした。

はじめのうちは、「確かに男性／女性の違いはある。けれどもそれはあくまで性別の違いに過ぎず、同じ人間なのだから、あるにしてもせいぜい纏っている文化や雰囲気の差異くらいのものだろう」と軽く考えていました。特集名に『女性僧侶』という呼称を用いたのは、「私は僧侶である。そしてたまたま女性なのだ」という認識を僧侶全体が持っているだろうと考えたからです。

そんな安易な思い込みは、女性僧侶の方のお話しを詳しく伺っていくうちに跡形もなく粉砕されました。文化風習、あるいはお寺のあり方の面で、男性僧侶と女性僧侶のあいだにはまだまだ大きな隔たりがあるようです。飯島惠道師も対談で仰っているように、得度してから多くの法齢を重ねた尼僧さんでも、法要への随喜において「これは女性の仕事だ」と地元で捉えられている役割に就くことが多いそうです。我々は女性であるというだけで先輩の僧侶を立ち働かせて、それが当たり前という現状に慣れきってしまっているのではないでしょうか。

同じ類（たぐい）の人間ばかりいる状況をもしかしたら異常かもしれないと考える

取材したある尼僧さんが呟いていました。「修行先から戻ってきて、地元の集まりや法要に出ます。そうすると、尼僧の私をどう扱って良いか戸惑っているのが、よくわかるんですよね。その様子を見てこちらも間違ったことをしてる気がして、気が咎める。そして自分を卑下するようになる」

私はこのお話しを聞いて、実はお互いの「戸惑い」こそが、女性を低く見る風習が未だにのさばる原因なのではないかと考えました。関係が宙ぶらりんのまま、定まらない状況ほど人間にとってストレスフルなものはありません。女性にしてみても、こんな居心地の悪い思いをするくらいなら、一段低く見られるとわかってはいても男性に対して一歩引いた仕事をしよう、と思うようになるでしょう。少なくともその仕事は「女のやる仕事」だと周囲から認められており、「戸惑い」の表情に直面することはなく安定しているからです。

我々（男性も女性も）が戸惑いの表情を浮かべてしまうのなぜか。それは気付かぬうちに、同じ宗門の、同じ性の、同じような修行体験のある、同じような育てられ方をした（すなわち寺の子である）、同じような行動様式を持つ人と仏事をなすのが当たり前と思い込んでいるからです。

同じような人とばかり付き合うのは、とても楽です。前提条件を共有しているわけですから、わずかに口を開くだけで全ての意が通じます。逆に異質な人に出会うと、付き合い方がわからなくて戸惑い硬直してしまいます。異質な人と意思疎通するには手探りの努力が必要ですが、相手への尊敬と、どうしても違ってしまうお互いへの好奇心を持って取り組むべきです。それを肝に銘じ、私も取り組んでいきたいと思います。

ご多忙の中快く取材に応じてくださった皆様、誠に有難うございました。

文／広報委員　田ノ口太悟

全日仏青
News

JYBA
ALL JAPAN YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION

全日本仏教青年会
東日本大震災追悼慰霊
復興祈願法要

平成30年3月11日、宮城県仙台市宮城野区の浄土宗照徳寺様を会場とし、全日本仏教青年会（以下、全日仏青）が主催し「東日本大震災追悼慰霊・復興祈願法要」（全曹青主管、全国浄土宗青年会協力）を執り行いました。

法要は午後2時より照徳寺檀信徒並びに近隣・有縁の住民約60人が参列する中で厳粛に営まれました。全日仏青加盟団体並びに役員から寄せられた献花やお供え物が須弥壇を飾る中、倉島理事長導師のもとで、全国から参集した30人余りの青年僧侶が本尊阿弥陀如来を前に読経とお念仏を共に唱えました。震災発生時刻の午後2時46分には黙祷が捧げられました。

法要終了後、倉島理事長より「この地に参りますと、いまだ復興には時間がかかるということを感じます。私たちはこれからも出来る限りの活動をしていくことをお約束いたします」と挨拶がありました。続いて照徳寺副住職で全日仏青理事の中澤宏顕師が「皆様方も辛い気持ちかと思いますが、共に歩んでいきましょう。そして共に復興しましょう。建物の復興も必要ですが心の復興もしていかなければいけません。建物の復興、心の復興、共に目指して歩んでいきたいと思います」と遺族に語りかけました。法要後には青年僧侶が各地より持ち寄ったお菓子とお茶が振る舞われ、交流する時間も持たれました。

東日本大震災から8年目を迎え、復興に向かって新しい生活を始めた方々がいる一方で孤立・孤独に遮られる方の声を耳にします。ご遺族と共に大震災や津波で喪われた大切な方とのつながりを感じ、残された〝いのち〟をより輝かせ、人の心が豊かな地域を作り出す未来への礎となるよう当法要が企画されました。ご遺族と共に亡き大切な方へのご冥福を祈り、共に祈ることを通じて、改めて「生きること」の尊さ、「生かされていること」のありがたさを一緒に感じられる法要でした。

照徳寺様は海岸から約1キロメートルの場所に位置し、甚大な震災被害を受けた寺院の1つです。仙台沿岸では最大10メートル近い津波に襲われ、当寺周辺地区はほぼ壊滅状態となり、照徳寺様は本堂の原型は辛うじて残りましたが、山門、庫裏、客殿、鐘楼堂、墓地、全てが流出しました。境内には遺体が数体流れ着いている状況でした。そのような状態の中、不思議なことに堂内の瓦礫は須弥壇の前で止まり、御本尊は無事でした。寺院周辺は数軒だけが住まいの原型は留めていたものの、大多数が基礎しか残っておらず焼野原のようでした。照徳寺様が所在する地区は世帯数約140軒。その中で檀信徒は80軒。震災による死者は、地区で60人以上に上り、檀信徒は54人の犠牲者がありました。現在、照徳寺様は、「照徳寺東日本大震災復興委員会」を立ち上げ別院を建設し再建途中です。

文／全日仏青特別委員会事務局長
全日仏青事務局長　内藤宏信

災害復興支援部 NEWS LETTER ニュースレター

今年も3月10日、11日に掛けて各地で東日本大震災の慰霊法要並びに行脚が執り行われました。

福島県

平成30年3月10日、福島県伊達市成林寺様で、慰霊復興祈願逮夜法要が倉島会長の導師のもと行われました。法要の後、成林寺ご住職は「震災から7年を数えまして、曹洞宗僧侶全体が、もう一度震災当時の姿勢に戻ることが大事」とご挨拶をされました。

翌11日の午前中、曹洞宗福島県青年会主催、東日本大震災慰霊碑供養が南相馬市で行われ、安達顧問、河口副会長が参加しました。どこも地震と津波の傷跡が痛々しく残っていました。

午後、成林寺様にある納経塔前で、河口副会長の導師のもと、慰霊復興祈願納経諷経が行われ、復興祈願の写経が奉納されました。河口副会長は、「震災からこれまで、地元の住民の方やボランティアに訪れた僧侶それぞれが、一歩一歩この地で培ってきた活動とそこから来る思いを地元に持ち帰り、風化させず他の人々に繋いで欲しい」と挨拶しました。

宮城県

3月11日、宮城県角田市自照院様での慰霊法要は、復興支援活動の継続を誓って建立した「活動の灯」前で行いました。倉島会長は「全国の仲間たちも各地で法要を勤め、心を寄せています」と語りました。

また、今年も宮城県曹洞宗青年会（宮曹青）・全曹青共催の石巻市大川地区慰霊行脚が行われました。宮曹青を中心に、山形・秋田、また遠くは三重・いずもから、合計約20人の青年僧侶が集いました。旧大川小学校に向けての行脚で、山に響く鈴の音が、忘れない供養を続けていくことの大切さをひしひしと感じさせる行脚となりました。

岩手県

3月11日午前より、岩手県宮古市常安寺様で東日本大震災物故者追悼法要が行われました。

法要後、ご住職からの挨拶では、まだまだ復興途中の現状と、未だに癒されないご遺族の心情、忘れることができない災害の大きさに、今後とも皆様と共に歩んで行く決意が述べられました。同じく午前に釜石市常楽寺様本堂で法話と法要が行われました。法要後、常楽寺ご住職が「これからもこの法要を皆様と一緒に続けていきたい」と挨拶されました。

午後より山田町龍泉寺様の本堂にて、ご住職導師のもと法要が行われた後、境内に建てられた「活動の灯」前に移動しました。

午後2時46分に全員で黙祷を捧げた後、菅原副会長の導師のもと法要が行われました。その後法要に参加された皆様と行茶を行いました。

今回の慰霊法要の詳しい内容はHP『般若』にて掲載しております。併せてご覧ください。

連載

宗教法人会計普及に向けて

第2回・収支差額と決算書

学校法人 大原学園理事長／中川和久

第2回は、まず収支差額についてお話したいと思います。収支差額とは、収入と支出の差額をいいます。収入とは外部から入ってくる金銭、支出とは外部へ出ていく金銭とお考えください。そうなりますと、収支差額とは、「収入」と「支出」の差額であり、「いくら内部に金銭が残っているか」を表すことになります。この金額が大きくなればなるほど、資金状況は充実し、余裕があることになります。逆に、支出が収入を上回ることになれば、過去の余剰分や借入で補填することとなり、経営は窮迫し、この状態が続くと経営はストップすることになります。

（図1）では、収入ベースではB社を上回るA社ですが、会社内部の資金的な余裕は、B社の方が上と考えられます。企業の業績判断を行う場合、売上総額の大小での分析も大切ですが、その部分だけに目が行ってしまうのは危険であるということを示しています。

①収支差額を表す資金収支計算書

さて、宗教法人では、営利企業と異なり、利益獲得が目的で活動しているわけではありませんので、企業会計の考え方をそのまま取り入れる必要はありませんが、平成7年の宗教法人法改正によって、一定の要件を満たす宗教法人においては、収支計算書や貸借対照表といった書類を作成し、事務所に備えなければなりません。企業会計でも、すべての会社に義務付けられているわけではありませんが、資金の収支差額を表す「キャッシュ・フロー計算書」という決算書の作成が求められています。前述の（図1）を見て分かる通り、A社がB社と同じ資金的な余裕を目標とするのであれば、収支差額の改善・向上が必要となり、その手法としては「収入を増やす」「支出を減らす」の2つしかありません。ただし、ここで注意が必要なのは、収入が増えても、それに伴って支出が大幅に増えるようなことがあると、収支差額は悪化してしまいます。例えば、某アパレル企業では、テレビCMを行ない、出店費用や改装費用がかさみ、さらに、値引き販売により収支差額が減ったことにより、売上は上がっても、収支差額は逆に減ってしまうという状況になりました。

②営利企業の決算書

営利企業が作成する決算書としてキャッシュ・フロー計算書をご紹介しましたが、実は営利企業の主な決算書には、貸借対照表と損益計算書があります。貸借対照表とは、経済活動の元手となる資金の調達源泉と運用形態を左右に対比する形で明らかにする書類をいい、損益計算書とは、もうけを得るために投下した資金と回収した資金を左右に対比する形でもうけを明らかにする書類をいいます。もうけは「利益」と表現されますが、現金の裏付けがない収支差額という概念であるため、厳密に言えば、先ほどの収支差額とは異なるものになりますが、（図2）において、同じものとして、ご紹介します。

③決算書の役割と作成方法

営利企業において、このような決算書といわれる書類を作成する目的は、「内部的には過去の経営活動について反省し、その反省に基づいて将来の計画を立てるため。外部的には、企業に関わる人々（銀行や投資家等）に会社の状態を知ってもらうため」となります。

我が国の現状は、少子超高齢社会となっており、人口減少局面での経済活動となってしまいます。そのため、海外の市場に目を向けるなど、従前の事業内容について変革をもたらす必要がでてきます。現状を打開するために新分野に進出するといっても、現状の会社の状態をしっかりと理解した上で、慎重に投資判断をすることができなければ、失敗する可能性が大きくなってしまいます。リスクを最小限にするためにも、企業の実態を表す情報が不可欠となり、その役割を果たすのが決算書となります。正確な決算書を作成するには、必要な情報を整理して、記録することが求められます。そこで、営利企業では、この決算書作成のための会計情報の記録方法として、複式簿記※という手法で記録し、決算書を作成しています。

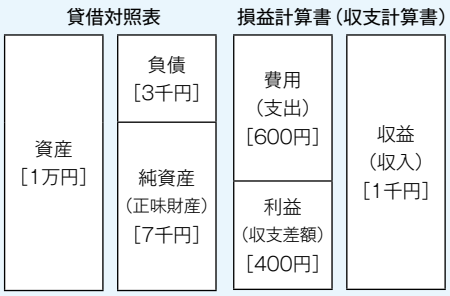
※複式簿記とは、一つの取引を二つの要素（左右）に分けて記録する方法です。中世イタリアの修道士ルカ・パチョーリが、『算術、幾何、比および比例全書』（スムマ）という数学書に「複式簿記」を体系的にまとめ、当時の活版印刷技術の発明により、この書物を出版したことで、複式簿記による会計が広く普及につながったとされています。

図1

	A社	B社
収入	1億円	3,000万円
支出	9,700万円	2,000万円
収支差額	300万円	1,000万円

※どちらが、資金的に余裕があるでしょうか。

図2



■貸借対照表：お金を1万円持っていて、そのうち3千円は友達から借りている（借金）場合
資産《1万円》＝負債《3千円》＋純資産《7千円》
となり、返さなくていい自分のお金7千円を純資産(正味財産)と言います。

■損益計算書：600円で買った（仕入）商品を、1千円で売った（売上）場合
収益《1千円》－費用《600円》＝利益《400円》
収益は収入、費用は支出と考えて頂いても結構です（正確には違いますが）

就職の大原 資格の大原

・全国曹洞宗青年会の活動内容について

全国曹洞宗青年会（通称・全曹青）の活動目的は「古教照心の示訓を旨に自己の研鑽に努め、互いに乳水和合し、自由で創造的な活動を通じ、心豊かな社会を形成する」です。具体的には各曹洞宗青年会活動との連携及び支援、並びに親睦活動、教化活動、文化事業推進、広報誌（『SOUSEI』等）の発刊、図書・資料の刊行などを行っています。

・第22期全国曹洞宗青年会の各委員会の紹介

【総合企画委員会】 仏教の布教教化活動推進のため、頒布物や行事の企画を行います。

【広報委員会】 広報誌『SOUSEI』の編集、HP『般若』の運営、各SNS(Facebook、Instagram) の管理を通して、全曹青及び加盟団体の活動を紹介します。

【教化委員会】 「作法是宗旨」の教えに則り、曹洞宗で大切にしている各法要や儀礼の探求、あるいは関連書物、DVDの製作を行います。

【災害復興支援部】　地震等の災害が起こった際、各加盟団体と連携し、情報収集と共有を行います。
また積極的にボランティア活動の企画や紹介を行います。

【臨床宗教師特別委員会】　臨床宗教師とは医療施設や福祉施設などで心のケアを提供する宗教者のことです。
全曹青では、臨床宗教師の活動について研修会で学んでいます。

【全日仏青特別委員会】　倉島会長が理事長として兼任する全日仏青の事務局を、全曹青が担当しています。

・世界仏教徒会議･世界仏教徒青年会議日本大会について

平成30年11月5日～9日の5日間、「世界仏教徒会議・世界仏教徒青年会議日本大会」が公益財団法人全日本仏教会の主催で開催され11月9日には大本山總持寺において記念法要が予定されています。世界仏教徒青年連盟（World Fellowship of Buddhist Youth、通称「WFBY」）とは、昭和47年に設立された、世界最大の青年仏教徒国際ネットワークとして活動を展開する団体です。

短編映画『典座―TENZO―』
撮影報告 連載第２回

今期の全曹青は『禅を世界へ、そして未来へ』をスローガンとして掲げております。そこでさらに禅を世界へ発信・伝播するべく、短編映画『典座―TENZO―』の制作に取り掛かっております。現在の映画制作の進捗状況や、現場の様子をご紹介します。

平成30年2月26日、27日 永平寺冬期撮影の様子

2日間にわたり、大本山永平寺にて冬期撮影が行われました。37年ぶりの記録的大雪の影響から、建造物や道が雪に飲み込まれ、例年の永平寺とは大きく異なる状況での撮影となりました。

予想以上の雪に戸惑いながらも、撮影スタッフと共に青年僧侶も一丸となり撮影に臨みました。手作業で雪をかき分け機材を設置し、寒さに乗って伝わる張り詰めた空気、雪冴える永平寺の姿を、余すことなく映像に納める事が出来ました。

平成30年3月26日 長野県無量寺での撮影の様子

穏やかな陽気で境内の梅もほころび始めた日、長野県塩尻市の無量寺様（青山俊董住職）にて撮影が行われました。当日、全曹青からは倉島会長ら4人が、撮影スタッフは富田監督をはじめ5人が撮影に臨みました。

今回は屋内での撮影で、スタッフは複数のカメラや照明など多種多様な機材を駆使し、青山老師にお話を伺う様子を収めました。老師の凛とした佇まいと素晴らしいお話に一同は感銘を受けておりました。

富田克也監督

以前は食に対して無頓着で、食べ物はコンビニなどで買ってくるという意識しかありませんでした。それが、東日本大震災をきっかけとして変わり、地べたから生えているものをいただいているということに気付きました。それから曹洞宗の典座という役割を知り、僕が思っていたことと曹洞宗の教えが合致したのです。

思えば僕の従弟がお寺の子で、幼いころからお寺は身近な存在でした。それから何十年も経った今、その従弟から今回の話をもらい、巡り巡って一緒に映画を作ることになっています。何か与えられたような気持ちで取り組んでいます。

近藤真弘委員長

私自身映画製作に携わるというのは初めての経験でした。なにもわからないところからのスタートでしたが、富田監督をはじめとした制作会社の方々と協力しながら順調に事業を進めていくことが出来ています。中でも両大本山、愛知専門尼僧堂の堂長青山俊董老師には格別のご協力又、ご配慮を賜り、大変ありがたく感謝いたします。禅寺での食事を媒体として、限りなく循環を続ける「いのち」をいただく有難さを映像で具体化する。まさに現代社会に発信するにふさわしい内容だと思います。撮影を目的に改めて細部まで目にした両大本山の伽藍、佇まいは素晴らしく、世界に発信できると実感もいたしました。引き続き倉島会長のもと、一丸となり映画の完成を目指します！

倉島隆行会長

この短編映画『典座―TENZO―』は、今期のスローガンである「禅を世界へ、そして未来へ」の集大成と言える事業であります。映画を通じて食の循環を感じることは、生かされている自己への気づきであり、日本人が失いかけている連綿たる先祖崇拝と、自然への畏敬を見つめ直す機会になると考えます。

映画に登場される老師は、私たちにとっては父の厳しさと母の慈愛を持たれた正師です。幼い頃に各々の食卓で継承されてきた「命のいただきかた」について改めて再確認し、曹洞宗が誇る食事作法を現代社会へ敷衍することを期待しております。この事業へのご理解とご協力を会員を代表し改めてお願い申し上げます。

青山俊董老師

一粒の米にも一枚の菜葉にも生命があります。「いただきます」とは「生命をいただきます」ということ。私たちは沢山の生命をいただいて今の自分があるということに気付いてほしい。また、きれいにいただくことは、生命への感謝であり、料理を作る方への感謝でもある。子どものころから食事作法をしっかり身に付けてほしい。

仏教を伝えるのに「不易」と「流行」があります。「流行」とは国や時代によって無限に対応する面、方便門。「不易」とは車でいえば車軸で、はずしてはいけない面。これをはずしたら仏法ではなくなります。祖師方が命がけで伝えてきたこの「不易」の一点は、決して曲げてはならないと思います。

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

短編映画「典座―TENZO―」協賛金感謝録

◆特別協賛
93　性源寺　様
（山形県）
100 澄月寺　様
（青森県）
181 永祥寺　様
（北海道）
237 萬福寺　様
（山口県）

◆東京都
70　永昌寺　様
173 江岸寺　様
175 泰宗寺　様
205 玉宗寺　様
311 妙光院　様

◆神奈川県２
16　正観寺　様
43　全龍寺　様
50　修廣寺　様
153 勝源寺　様

◆埼玉県１
428 皎心寺　様

◆群馬県
15　天増寺　様
群馬県宗務所　様

◆茨城県
13　龍泉院　様
63　常光院　様
138 正源寺　様
182 龍心寺　様

◆千葉県
7　満蔵寺　様
22　廣壽寺　様

◆山梨県
57　宗禪寺　様
69　西源寺　様
115 海潮院　様
200 長松院　様
269 西方寺　様
329 廣誓院　様

◆静岡県１
27　泉秀寺　様
61　長光寺　様
109 玉泉寺　様
165 光明寺　様
185 三明寺　様
464 正泉寺　様
552 貞善院　様

◆静岡県２
228 耕月寺　様
321 円応寺　様
367 佛源寺　様

◆静岡県３
676 孤雲寺　様
1228 栄林寺　様

◆静岡県４
1122 林泉寺　様

◆愛知県１
156 地藏寺　様
162 妙渕寺　様
229 寶泉寺　様
231 慶昌院　様
259 玉林寺　様
261 薬師寺　様
635 永澤寺　様
639 正林寺　様
824 東昌寺　様

◆愛知県３
389 普濟寺　様
431 報恩寺　様
462 長心寺　様

◆岐阜県
149 浄光寺　様

◆三重県１
7　海蔵寺　様
37　四天王寺様
59　長樂寺　様
107 祥雲寺　様
246 寶泉院　様
271 宝蔵寺　様
291 林昌寺　様
305 傳法院　様
三重県第一宗務所 様

◆京都府
166 龍澤寺　様

◆大阪府
34　妙壽寺　様

◆奈良県
68　景徳寺　様

◆岡山県
169 毎来寺　様

◆広島県
7　伝福寺　様
22　光禅寺　様

◆山口県
145 久屋寺　様
236 飯倉寺　様
245 常関寺　様

◆鳥取県
32　吉成寺　様
176 延暦寺　様

◆島根県２
32　宗淵寺　様
70　完全寺　様
187 養善寺　様

◆愛媛県
1　高昌寺　様
146 興雲寺　様

◆大分県
81　善幸寺　様

◆佐賀県
117 本光寺　様

◆熊本県１
6　泰巖寺　様
48　神照寺　様

◆長野県１
243 廣徳寺　様

◆長野県２
595 検校庵　様

◆新潟県１
406 安善寺　様
502 東光寺　様

◆福島県
14　円通寺　様
246 長徳寺　様
461 正法寺　様

◆宮城県
324 光巖寺　様
382 清水寺　様
392 金秀寺　様
416 光岳寺　様

◆岩手県
32　吉祥寺　様
52　福蔵寺　様
245 常楽寺　様
261 常安寺　様

◆青森県
111 玉泉寺　様
138 安樂寺　様
183 大乘寺　様

◆山形県１
181 祥雲寺　様
219 英照院　様

◆山形県３
722 永蓮寺　様

◆秋田県
166 久昌寺　様
258 鳳来院　様

◆北海道１
95　龍興寺　様

◆北海道２
102 興禅寺　様
241 孝徳寺　様
418 萬台寺　様

◆北海道３
219 瑞法寺　様

インターネット受付分

◆東京都
pizza 4P's &RIDE MEDIA&DESIGN様
内藤博文　様

◆静岡県４
1108 瑞生寺　様

◆静岡県
深川祐輔　様

◆長崎県１
27　廣福寺　様

◆新潟県４
82　養廣寺　様

◆福島県
156 大龍寺　様

株式会社 萬盛
〒338－0006
埼玉県さいたま市中央区八王子３－７－11
☎048－853－1189：855－5491
作務衣・衣・お袈裟・足袋・ベッス他。
体型に合わせてお作りさせて頂きます。

賛助費浄納御芳名簿

平成30年1月5日～平成30年3月31日取扱い分

◆東京都
70　永昌寺　様
311 妙光院　様
374 善福寺　様

◆神奈川県２
16　正観寺　様

◆埼玉県１
392 報恩寺　様

◆群馬県
194 善宗寺　様

◆栃木県
51　豊栖院　様
175 本光寺　様

◆茨城県
2　天徳寺　様
92　宝積寺　様
134 大統寺　様
182 龍心寺　様

◆千葉県
1　總寧寺　様
7　満蔵寺　様
8　重俊院　様
20　福壽院　様
22　廣壽寺　様
74　廣済寺　様
94　長興院　様
121 寶林寺　様

◆山梨県
57　宗禅寺　様
162 法久寺　様
275 耕雲院　様

◆静岡県１
109 玉泉寺　様
127 楞厳院　様
388 林叟院　様
464 正泉寺　様

◆静岡県２
240 醫王寺　様
321 円応寺　様
325 海蔵寺　様
346 東大寺　様
362 福泉寺　様

◆静岡３
676 孤雲寺　様
721 長福寺　様
832 善勝寺　様
988 福王寺　様

◆愛知県１
7　全香寺　様
44　正福寺　様
70　慈済寺　様
313 長松寺　様
342 常楽寺　様
635 永澤寺　様

◆愛知県２
723 西漸寺　様

◆愛知県３
431 報恩寺　様
557 楞嚴寺　様

◆岐阜県
153 宗久寺　様
245 良守寺　様

◆三重県１
7　海蔵寺　様
37　四天王寺様
59　長樂寺　様
114 海禅寺　様
246 寶泉院　様
271 宝蔵寺　様
305 傳法院　様

◆京都府
11　洞泉寺　様
34　神應寺　様
236 善光寺　様
367 福昌寺　様
389 萬福寺　様

◆大阪府
5　臨南寺　様
26　天徳寺　様
38　慈願寺　様
69　永興寺　様
88　正俊寺　様

◆奈良県
68　景徳寺　様

◆兵庫県１
369 大龍寺　様
375 金剛寺　様

◆兵庫県２
228 豊楽寺　様

◆岡山県
86　源樹寺　様
178 成興寺　様

◆広島県
6　禅昌寺　様
22　光禅寺　様
46　双照院　様
58　宗光寺　様
93　賢忠寺　様
135 鳳林寺　様
167 正安寺　様

◆山口県
4　寶蔵寺　様
54　昌福寺　様

◆鳥取県
32　吉成寺　様
66　松岸寺　様
133 妙元寺　様
146 妙楽寺　様

◆島根県１
296 守源寺　様

◆島根県２
50　妙岩寺　様
63　龍覚寺　様
70　完全寺　様
93　法恩寺　様
144 福知寺　様
187 養善寺　様

◆愛媛県
18　陽春院　様
146 興雲寺　様

◆福岡県
47　増福院　様

◆長崎県１
3　永昌寺　様
78　宝泉寺　様

◆佐賀県
117 本光寺　様

◆熊本県２
88　明徳寺　様

◆長野県１
86　圓福寺　様
243 廣徳寺　様
587 観音庵　様

◆長野県２
400 長久寺　様
421 青原寺　様
493 吉祥寺　様
512 浄蓮寺　様
566 広明寺　様
595 検校庵　様

◆福井県
130 宗榮寺　様

◆石川県
75　大覚寺　様

◆富山県
206 慈眼寺　様

◆新潟県１
354 法音寺　様

◆新潟県４
9　東陽寺　様
238 光淨寺　様

◆福島県
79　西松寺　様
93　長光寺　様
111 普光寺　様
226 常隆寺　様
275 性源寺　様
461 正法寺　様

◆宮城県
141 自照院　様
149 喜松院　様
319 大永寺　様
324 光嚴寺　様

◆岩手県
32　吉祥寺　様
123 寶城寺　様
186 大光寺　様
245 常楽寺　様

◆青森県
19　宗徳寺　様
100 澄月寺　様
183 大乗寺　様

◆山形県１
168 高松院　様
238 西来院　様

◆山形県３
433 祐性院　様
641 宝泉寺　様
722 永蓮寺　様

◆秋田県
76　藏堅寺　様
165 能持院　様
174 満福寺　様
258 鳳来院　様
321 鏡得寺　様

◆北海道１
39　正覚院　様
69　大林寺　様
78　正林寺　様
488 清泉寺　様

◆北海道２
248 總泉寺　様
299 永福寺　様

インターネット受付分

◆千葉県
祥雲寺　様

ボランティア基金感謝録

静岡県　楞厳寺　様
静岡県　山崎一典　様
三重県第一宗務所寺族会　様
三重県　四天王寺　様
新潟県　桐盛院　様
北海道第二宗務所第二教区青年部　様

総合企画委員会のごあいさつ

全曹青 real voice

委員長　日向真学

第22期総合企画委員長を務めさせていただいております、岩手県曹洞宗青年会、日向真学と申します。一般檀信徒に仏教をより身近に感じていただき、青年僧侶の布教教化の一助となる様な頒布物の製作と企画立案を通じて全曹青の発展に微力ながらお手伝い出来ればと考えております。

本年度は大事業が控えており、委員の皆さんと力を合わせ無事円成出来る様精進してまいります。

委員　眞如大貴

北海道第3宗務所青年会より参加しております眞如大貴と申します。今期で2期目となり総合企画委員として務めさせていただく事となりました。前期は心の傾聴委員でまだ右も左もわからず手探り状態ですが、少しでも仏教を身近に感じていただける頒布物を皆様に提供できる様、委員の皆様と協力しながら頑張っていく所存です。よろしくお願いいたします。

委員　鈴木文雄

茨城県曹洞宗青年会から参加させていただいている鈴木文雄です。第21期から総合企画委員として活動させていただいております。

今期のスローガンである『禅を世界へ、そして未来へ』のスローガンのもと、世界へ向けての企画・イベントや未来に繋がる布教のための頒布物を委員会の一員として考えていきたいです。微力ではありますが、今期も精一杯活動していきますのでよろしくお願いします。

委員　洞派正信

第21期に引き続き総合企画委員として長野県第2宗務所青年会より参加させていただいております。多くの方々から「全曹青の頒布物を利用している」と、有難いお言葉を掛けていただけるのが総合企画委員として一番の励みと感じています。これからも、青年僧侶目線で皆様の布教教化の一助となるような頒布物を製作できればと考えています。多くのご意見を頂戴する中で、頒布物への新たなアイデアや視点が生まれますので「こんな頒布物を作ってほしい」等のご要望があれば是非総合企画委員会までお寄せください。

委員　橘春昭

第22期総合企画委員会に曹洞宗鳥取県青年会より参加しております橘春昭です。前期は心の傾聴委員でお世話になりました。

新しい委員会ということでわからないことばかりでございましたが、優しい皆様の助けもあり、なんとか1年間、委員会活動を務めることができました。

残り1年、大きな事業も控えております。総合企画委員として、これまでの経験、反省を生かし精一杯頑張りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。

委員　竹中真介

竹中真介と申します。京都曹洞宗青年会より参加させていただいています。

幅広い活動で青年僧侶への信頼の向上や仏教の敷衍に取り組まれている全曹青を微力ながらお手伝いできればと思います。よろしくお願いいたします。

委員　野田志裕

今期は総合企画委員を拝命いたしました、宮崎県曹洞宗青年会より参加しております野田でございます。

3期目の参加となる今期は、過去の経験を微力ながら活かし、未来に向けて、今できることを体現できるよう努めてまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

委員　有田友光

四国地区曹洞宗青年会より参加させていただいている有田友光と申します。

今年も3月11日にあわせて福島県成林寺様の納経塔に皆様の想いのこもった写経を納経させていただきました。これからも写経プロジェクトを通して皆様の願いを届けるお手伝いが出来るよう頑張ります。

連載

OH!くりさん

第3回

心の水にすむ月は

文と絵／愛知県　正壽寺寺族　早坂　宏香

初めて坐禅を組んだ時、身体以上に心が辛くて仕方がありませんでした。

元々慌ただしい性質で、様々なことを追いかけて頭の中はいつも渋滞状態だった私には、それを止めるということは自分を否定するように感じられてしまったのです。どうしていいのかわからず、藁にもすがる思いで瞑想を体験したのですが、わからないなりにもしっくりときてしまい、坐禅を辛く感じたことが後ろめたくなりつつも、何もしないよりは…としばらく続けることにしました。

そのうちに、ある時期に市民プールで2キロほど泳ぐことをライフワークとしていたことをふと思い出しました。運動不足解消もありましたが、何より淡々と手足を動かし続けているうちに自分の思考が深く沈んでゆく感覚が好きで泳いでいました。それはとても孤独で、世間から遮断されていて、そして瞑想とちょっと似ているなと感じたのです。

坐禅の時、「思い浮かぶことを追いかけないで流すのだよ」と和尚は穏やかに話してくれます。思考を追いかけないと満たされることはない、と思って私は生きてきました。

水泳の事を思い出した時、その言葉の意味がようやく紐解けた気がして「坐禅っていいなぁ」と、はじめて感じることができたのでした。

SOUSEI
発行所／全国曹洞宗青年会　〒105-8544　東京都港区芝2-5-2　曹洞宗宗務庁内　発行責任者／倉島隆行　編集責任者／西古孝志　編集委員／櫛田秀道・武田信光・小川豚道・井口昭典・大菅哲哉・菅悠生・田ノ口太悟
本誌編集部並びに発行部数に関するお問い合わせ先／〒699-1343 島根県雲南市木次町湯村900　養善寺内　TEL 080-6305-9397　FAX 0854-48-0371　制作・デザイン／カラスブックス　印刷所／創文社印刷株式会社　定価200円

全曹青からのお知らせ

この度、曹洞宗山形県第三宗務所青年会様が全曹青へ新規加盟されました。共に活動できますことを大変嬉しく思います。御礼と心からの歓迎を申し上げます。

全曹青は、これからも連絡協議体の更なる拡充のため、ご理解とご賛同をいただけるよう努めてまいります。

法要公務帳「本葬」を追加
@全曹青公式アプリ『アプリソウセイ』

この度、第22期教化委員会では全曹青公式アプリ『アプリソウセイ』法要公務帳の拡充を図るべく前期の「本尊上供」「晋山結制」に続き、「本葬」を追加作成いたしました。

内容は『昭和改訂曹洞宗行持軌範』を基に、九仏事（入龕・移龕・鎖龕・掛真・対真小参・起龕・奠湯・奠茶・秉炬）をそれぞれ差定から、配役から検索し、簡単に解説を読むことが出来ます。文章でわかりづらい場面には写真や動画を用いて一目で理解できるよう工夫してあり、維那の念誦文もすべて書き下しで収録されています。是非『アプリソウセイ』をダウンロードしていただき、本葬儀の際、または自身の研鑽の資料としてご活用下さい。

なお、細かな進退等は、地域やそれぞれの寺院により差異があります。その点をご留意の上ご利用いただければ幸いです。

青年僧侶のおすすめの1冊

「悪人は仏陀の正客（しょうきゃく）である。善人は悪人のための相伴人（しょうばんにん）たるに過ぎぬ」

言うまでもなく曹洞宗の喪儀は授戒という形を取っている。罪障を消滅させるため懺悔文を唱え、16条の戒を守ることを誓う。自らの意志で仏陀の弟子となることを選び、誓うことに特徴があると言えるだろう。

以前、喪儀の脇僧を務めていてどうにも居心地の悪い思いをしたことがある。それは赤ん坊の喪儀だった。赤ん坊だから懺悔すべき貪・瞋・痴などおそらくないし、断つべき執着や煩悩の迷いなどについては味わう間もなく亡くなってしまったわけである。喪儀の内容と、それが向けられる対象との間に、空しい行き違いが生じている気がして仕方なかった。

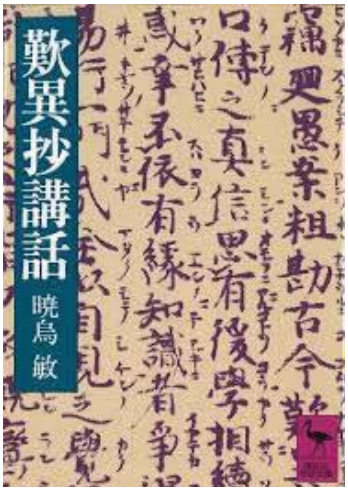
「悪人」とは、自力で涅槃に至ることの出来ない者たちのことを指す。親鸞上人の考える悪人にはもちろん早死にした子どもも含まれていたことだろう。悪人こそが仏陀の正機であると考え始めたきっかけは、ことによると悪人たちの喪儀に響く「空しさ」に打たれたからかも知れない。

暁烏敏は、誤解を招きやすいとして禁書扱いだった『歎異抄』を明治期に再評価した人物。西洋から輸入された「自由意志」への批判を展開しながら、「意志を捨てることの喜び」を熱心な口調で語る。敏は自分の称える念仏さえも信じていない。

「われらのほうで肉食う口で、嘘言う口で、称えるくらいがなんで仏種（ほとけだね）であろう」

文／広報委員　田ノ口太悟

暁烏敏（あけがらすはや）著
『歎異抄講話』講談社学術文庫



表紙の話

「堅苦しくなりすぎず、写経を楽しむ雰囲気を意識しました。モデルさんも『写経を書き終えると達成感が味わえる』と言っていました。ちなみに、使用したのは全曹青の写経用紙です」

撮影者／PG　原依里